



イーブイエー  
ダイレクト年金 e-VA

新変額個人年金保険(無配当)  
特別勘定グループ(GW)

# 月次運用実績レポート

## 2010年11月

特別勘定の名称	主な運用対象の投資信託	投資信託の運用会社
日本株インデックス型(GW)	インデックスファンド225VA (適格機関投資家向け)	日興アセットマネジメント株式会社
日本株アクティブ型(GW)	フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3 (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社
海外株式型(GW)	ステート・ストリート外国株式 インデックス・ファンドVA1(適格機関投資家専用)	ステート・ストリート・グローバル ・アドバイザーズ株式会社
新興成長国株式型(GW)	JPM・BRICS5・ファンド (適格機関投資家転売制限付)	JPモルガン・アセット・マネジメント 株式会社
海外債券型(GW)	ビムコ・海外債券ファンド (適格機関投資家専用)	ビムコジャパン リミテッド
日本債券型(GW)	MHAM物価連動国債ファンドVA (適格機関投資家専用)	みずほ投信投資顧問株式会社
海外リート型(GW)	ノムラ海外REIT インデックス・ ファンドVA(適格機関投資家専用)	野村アセットマネジメント株式会社
マネープール型(GW)	フィデリティ・マネー・プールVA (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社

<引受保険会社>

アクサ生命保険株式会社



redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

TEL 0120-933-399

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

特別勘定名称

運用方針

# 日本株インデックス型（GW）

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、日経平均株価に連動した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本株 インデックス型 (GW)	7.63%	12.64%	1.76%	6.42%	▲39.33%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.7%
投資信託	97.3%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

【参考】日本株インデックス型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## インデックスファンド225VA(適格機関投資家向け)

(運用会社:日興アセットマネジメント株式会社)

### <基準価額の騰落率>

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
インデックス225VA	13.26%	2.37%	7.73%	▲ 12.95%	1.61%
日経平均株価 (225種・東証)	12.61%	1.72%	6.33%	▲ 14.11%	0.70%
差異	0.65%	0.64%	1.40%	1.15%	0.90%

### <純資産総額>

純資産総額	163.02億円
-------	----------

※収益率は、1年以上の場合、年率ベースで、1年未満（3ヵ月間、6ヵ月間）は、年率換算していません。  
※ファンド（分配金再投資）の収益率は、当ファンド決算時に分配金があった場合の分配金を再購入（再投資）し、算出しています。  
※収益率・リスクともに月次の収益率より算出しています。設定日が月中の場合、設定日が属する月は含んでいません。

### <株式組入上位10業種>

	業種名	ファンドのウェイト
1	電気機器	23.24%
2	情報・通信業	8.62%
3	小売業	7.97%
4	輸送用機器	6.82%
5	化学	6.58%
6	医薬品	6.50%
7	機械	5.16%
8	食料品	3.82%
9	精密機器	3.60%
10	卸売業	2.89%

※ファンドのウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

### <株式組入上位10銘柄>

	銘柄名	ファンドのウェイト
1	ファーストリテイリング	5.31%
2	ファナック	4.81%
3	ソフトバンク	3.49%
4	京セラ	3.43%
5	本田技研工業	2.42%
6	キヤノン	2.38%
7	TDK	2.16%
8	東京エレクトロン	2.11%
9	KDDI	1.92%
10	テルモ	1.79%

(組入銘柄数225銘柄)  
※ファンドのウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

### <資産構成>

株式	99.20%
一部上場	99.20%
二部上場	0.00%
地方単独	0.00%
ジャスダック	0.00%
その他	0.00%
株式先物	0.77%
株式実質	99.98%
現金その他	0.80%

※当ファンドの実質の組入比率です。

### <運用コメント>

月初9,202円45銭の日経平均株価は、為替市場での円の高止まりや企業業績の先行き不透明感などに圧迫されて軟調に始まりました。その後、米国の追加金融緩和の実施により株式市場への潤沢な資金流入期待が高まったほか、2010年7～9月期の国内総生産(GDP)の上振れや円高傾向の一服なども追い風となり、輸出関連株を中心に日経平均株価は上昇基調で推移し、中旬に1万円台を回復しました。下旬は、引き続き海外投資家の買いに相場が下支えられるなか、アイルランドなど欧州の財政問題の動向や朝鮮半島情勢を眺めつつ、日経平均株価は一進一退の展開となりましたが、月末には中国の金融引き締め観測などを背景に下落して1万円を割り込み、9,937円04銭で月末を迎えました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

## 特別勘定名称

## 運用方針

## 日本株アクティブ型(GW)

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本株 アクティブ型 (GW)	5.79%	7.94%	▲1.16%	4.22%	▲41.54%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.9%
投資信託	97.1%
合計	100.0%

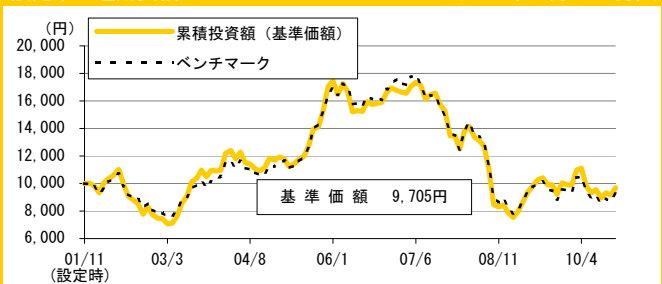
## 【参考】日本株アクティブ型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

- ①主として日本株を投資対象とします。  
②個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性などと比較して妥当と思われる株価水準で投資を行ないます。

## 設定来の運用実績 (2010年11月30日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、申込手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。

## &lt;運用コメント&gt;

11月の東京株式市場は、海外株式市場に対する出遅れ修正が進みました。前月来の軟調な地合いを受け継いで当月は小安く始まりましたが、FRB(米連邦準備制度理事会)の市場想定をやや上回る追加金融緩和策発表を受けて米景気の持ち直し期待が広がるなどドル安も一服、日本株は急反発しました。その後、アイルランドの財政不安や中国の更なる金融引き締め懸念を背景に、欧米株は弱含みの推移に転じたものの、日本株は更なるドル高円安傾向を好感した買いが続き、下旬に入り、EU(欧州連合)やIMF(国際通貨基金)によるアイルランドへの支援策発表や米消費関連指標の回復などが好感されたものの、朝鮮半島情勢や欧州における財政・金融危機の拡大に対する投資家の不安は根強く、月末にかけて日本株は上値の重さが意識される展開でした。

月間の騰落率は、TOPIX(配当金込)が+6.17%、日経平均株価は+7.98%となりました。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

## ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

## &lt;資産別組入状況&gt;

株式	97.2%
新株予約権証券(ワラント)	-
投資信託・投資証券	0.3%
現金・その他※	2.5%

※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」1.8%を含みます。

## &lt;市場別組入状況&gt;

東証1部	87.5%
東証2部	0.0%
ジャスダック	0.9%
その他市場	9.1%

## &lt;組入上位5業種&gt;

電気機器	23.1%
銀行業	10.0%
輸送用機器	7.9%
卸売業	6.3%
機械	6.1%

(対純資産総額比率)

商品概要		2010年12月(月次改訂)
形態	追加型投信/国内/株式	
投資対象	わが国の株式等	
設定日	2001年11月29日	
信託期間	原則無期限	
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)	

累積リターン		(2010年11月30日現在)				
	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来	
ファンド	6.04%	8.46%	▲0.71%	5.44%	▲2.95%	
ベンチマーク	6.17%	7.85%	▲1.29%	4.36%	▲7.46%	

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

※ベンチマーク: TOPIX (配当金込)

過去5期分の収益分配金 (1万口当たり/税込み)		
第5期(2006.11.30)	-----	0円
第6期(2007.11.30)	-----	0円
第7期(2008.12.01)	-----	0円
第8期(2009.11.30)	-----	0円
第9期(2010.11.30)	-----	0円

## 純資産総額 702.3 億円 (2010年11月30日現在)

## 組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2010年10月29日現在)

	銘柄	業種	比率
1	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.1%
2	ミズグループ本社	卸売業	2.9%
3	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.7%
4	オリックス	その他金融業	2.6%
5	任天堂	その他製品	2.4%
6	三菱電機	電気機器	2.4%
7	日本電産	電気機器	2.4%
8	三井物産	卸売業	2.2%
9	トヨタ自動車	輸送用機器	2.1%
10	マキタ	機械	2.1%

(組入銘柄数:194) 上位10銘柄合計24.7%(対純資産総額比率)

※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」は、組入上位10銘柄の対象から除いています。

(2010年10月29日現在)

\*各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

\*ファンドは短期資金の運用の一環として、委託会社が設定した「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」に投資する場合があります。これはあくまでも短期資金の運用であるため、組入上位10銘柄、市場別組入状況には含めず、資産としては「現金・その他」に分類いたしております。なお、未払金等の発生により、「現金・その他」の数値が「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」の数値を下回ることがあります。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 海外株式型(GW)

運用方針

日本を除く主要先進国企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、MSCI KOKUSAIインデックスに連動した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
海外株式型 (GW)	2.03%	10.89%	3.56%	2.09%	▲34.70%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.7%
投資信託	97.3%
合計	100.0%

【参考】 海外株式型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## ステート・ストリート外国株式インデックス・ファンドVA1(適格機関投資家専用)

(運用会社:ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社)

### <基準価額の騰落率>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
ステート・ストリート 外国株式インデックス・ ファンドVA1	2.21%	11.57%	4.08%	3.11%	25.50%
MSCIコクサイ インデックス (円換算)	2.33%	11.84%	4.34%	3.91%	36.69%
差異	▲ 0.12%	▲ 0.27%	▲ 0.26%	▲ 0.81%	▲ 11.19%

### <総資産総額>

純資産総額 6,574百万円

### <組入銘柄数>

銘柄数(マザーファンド) 1,325

### <信託財産構成比>

### <外国株式組入上位10銘柄>

	銘柄	国	業種	比率
1	EXXON MOBIL CORP	アメリカ	エネルギー	1.7%
2	APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	1.4%
3	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	0.9%
4	NESTLE SA-REG	スイス	食品・飲料・タバコ	0.9%
5	IBM CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	0.9%
6	HSBC HOLDINGS PLC	イギリス	銀行	0.8%
7	PROCTER & GAMBLE CO	アメリカ	家庭用品・パーソナル用品	0.8%
8	GENERAL ELECTRIC CO	アメリカ	資本財	0.8%
9	JOHNSON&JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	0.8%
10	CHEVRON CORPORATION	アメリカ	エネルギー	0.8%

### <運用コメント>

#### <11月の市場概況>

11月の米国株式市場は、10月のISM製造業指数が予想外に改善したことや、米連邦公開市場委員会(FOMC)において追加の量的緩和策が発表されたことなどから、株価は上旬にかけて大幅に上昇しました。しかしその後、中国の金融引き締め策が嫌気されたことや欧州の財政懸念が再び強まったことなどから、株価は月末にかけて下落しました。ダウ平均は11,006.02(前月比-1.01%)、ナスダック総合は2,498.23(前月比-0.37%)、S&P500指数は1,180.55(前月比-0.23%)で終了しました。

欧州株式市場は、米国の追加緩和策への期待感などから上昇して始まりましたが、欧州の経済統計が不調であったことやアイルランドに対する財政懸念が高まったことなどから、株価は下落に転じました。その後、財政懸念問題がポルトガルやスペインなど他の欧州諸国に飛び火したことなどから、株価は月末にかけて下落幅を広げました。英FT指数は5,528.27(前月比-2.59%)、仏CAC指数は3,610.44(前月比-5.82%)、独DAX指数は6,688.49(前月比+1.32%)で終了しました。

アジア市場は、米国のマクロ指標が好調であったことや追加緩和策への期待から株価は急伸して始まりましたが、その後、中国の金融引き締めが嫌気されたことや北朝鮮の韓国への砲撃による地政学的リスクの高まりなどから、株価は月末にかけて下落しました。豪ASX200指数は4,584.40(前月比-1.66%)、香港ハンセン指数は23,007.99(前月比-0.38%)で終了しました。

外国為替市場は、米連邦準備理事会(FRB)による過度な追加緩和に対する米国内からの懸念が米ドルの対主要通貨での買い材料となり、円安ドル高が進みました。円は対米ドルで月間4.18%下落の84.27円となりました。

MSCIコクサイ指数パフォーマンスは前月比+2.33%となりました。

項目	国名	比率
外国株式	[全体]	97.6%
	<北米>	59.4%
	アメリカ	53.7%
	カナダ	5.8%
	<アジア・太平洋>	6.7%
	オーストラリア	4.2%
	香港	1.5%
	シンガポール	0.9%
	ニュージーランド	0.1%
	<ヨーロッパ>	31.1%
	イギリス	10.5%
	フランス	4.7%
	ドイツ	4.1%
	スイス	3.8%
	オランダ	1.2%
	イタリア	1.3%
	スペイン	1.6%
	スウェーデン	1.6%
	フィンランド	0.5%
	ベルギー	0.5%
	アイルランド	0.1%
	デンマーク	0.5%
	ノルウェー	0.4%
	ギリシャ	0.1%
	ポルトガル	0.1%
	オーストリア	0.2%
	<アフリカ・中東>	0.4%
	イスラエル	0.4%
その他(現金及び株価指数先物)		2.4%

※マザーファンド・ベース  
※比率は対純資産で計算しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。



## 特別勘定名称

## 新興成長国株式型(GW)

## 運用方針

新興成長国の企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(2006年5月26日)を「100」として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
新興成長国株式型(GW)	2.48%	11.91%	10.37%	17.77%	25.28%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.8%
投資信託	97.2%
合計	100.0%

## 【参考】新興成長国株式型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## JPM・BRICS5・ファンド(適格機関投資家転売制限付)

(運用会社:JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社)

## &lt;基準価額の騰落率&gt;

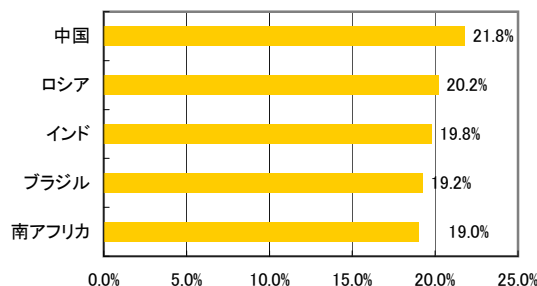
	1ヶ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
JPM・BRICS5・ファンド	2.7%	12.7%	11.4%	19.2%	54.6%

※騰落率については、基準価額に税引き前分配金を再投資して計算しております。

※騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

※ファンド設定日は2006年5月26日です。

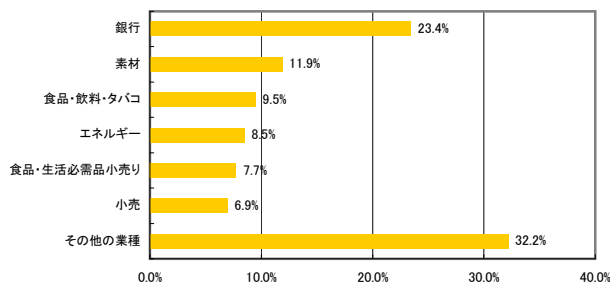
## &lt;国別構成比率&gt;



※マザーファンド・ベース

※比率は組入れ有価証券を100%として計算しております。

## &lt;業種別構成比率&gt;



※マザーファンド・ベース

※比率は組入れ有価証券を100%として計算しております。

## &lt;株式組入上位10銘柄&gt;(銘柄数 53銘柄)

	銘柄	国	業種	比率
1	ズベルバンク	ロシア	銀行	7.24%
2	HDFC	インド	銀行	4.91%
3	招商銀行	中国	銀行	3.34%
4	ノリルスクニッケル	ロシア	素材	3.12%
5	マグニト	ロシア	食品・生活必需品小売り	3.10%
6	中国建設銀行	中国	銀行	2.88%
7	華潤創業	中国	小売	2.86%
8	利豊	中国	小売	2.85%
9	ショップライト・ホールディングス	南アフリカ	食品・生活必需品小売り	2.68%
10	インフォシス・テクノロジー	インド	ソフトウェア・サービス	2.65%

(2010年10月29日現在)

※マザーファンド・ベース

※比率は対純資産で計算しています。

## &lt;運用コメント&gt;

## 市場概況

当月のBRICS5カ国を含む新興国株式市場は変動の大きい展開となり、月間では下落しました。月初は、FRB(米連邦準備制度理事会)が追加量的緩和を発表したこと等を背景に、株式市場は上昇しました。しかしその後、北朝鮮の韓国砲撃による地政学的リスクの高まりや、欧州の債務危機に対する懸念が再燃し、EU(欧州連合)およびIMF(国際通貨基金)によるアイルランド救済に至ったことなど、市場の不安材料が相次ぎました。こうした状況下、投資家がリスク回避姿勢を強めたことから、新興国株式市場は軟調な展開となりました。

## 運用状況

・当月の月末基準価額は13,768円、前月比2.7%の上昇となりました。

・組入れ有価証券に対する国別の投資比率は、中国、ロシアが上位となり、20%を上回る比率となりました。一方で南アフリカ、ブラジル、インドは20%以下の比率となりました。

・当月は株価要因はマイナス、為替要因はプラスとなりました。ロシアを除く投資対象市場が下落したことがマイナス要因となりましたが、為替市場で概ね円安が進んだことがマイナス分を相殺し、基準価額上昇の要因となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

## 特別勘定名称

## 海外債券型(GW)

## 運用方針

日本を除く世界各国の公社債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に安定した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
海外債券型 (GW)	▲0.11%	▲1.12%	▲1.64%	▲3.15%	▲8.65%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.9%
投資信託	97.1%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

## 【参考】海外債券型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## ピムコ・海外債券ファンド(適格機関投資家専用)

(運用会社:ピムコジャパン リミテッド)

## &lt;基準価額の騰落率&gt;

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
ピムコ 海外債券ファンド	▲0.04%	▲0.90%	▲1.14%	▲2.10%	25.11%
ベンチマーク	▲0.33%	▲1.09%	▲2.56%	▲6.06%	17.69%
差異	0.29%	0.20%	1.42%	3.96%	7.42%

※ベンチマークは、シティグループ世界国債インデックス(除く日本、為替ヘッジなし)90%、1ヶ月日本円Libor10%を合成したものです。

## &lt;国別構成比&gt;

国名	組入比率
アメリカ	42.87%
ユーロ圏	40.54%
イギリス	13.51%
カナダ	0.53%
スウェーデン	0.00%
ポーランド	0.00%
オーストラリア	2.52%
日本	0.03%
合計	100.00%

## &lt;格付構成比&gt;

格付	組入比率
AAA	79.20%
AA	6.76%
A	5.85%
BBB	1.87%
BB以下	0.03%
A1/P1	6.29%
A2/P2	0.00%
合計	100.00%

## &lt;ファンドの一般特性&gt;

平均クーポン	3.27%
平均直接利回り	3.20%
平均最終利回り	3.44%
平均デュレーション	6.79年
平均償還期間	9.20年
平均格付け	AA+
債券組入比率	99.36%

## &lt;種別別配分&gt;

セクター名	組入比率
国債、エージェンシー債	81.94%
モーゲージ債、アセットバック債	1.49%
社債	15.94%
キャッシュ等*	0.64%
合計	100.00%

※「キャッシュ等」にはCP等も含まれます。

## &lt;運用コメント&gt;

## &lt;市場コメント&gt;

米国債券相場は、前半は、10月の米雇用統計が市場予想を上回ったほか、FOMC(米連邦公開市場委員会)において追加的な金融緩和が決定されると、債券相場で利益確定の動きが見られたことから下落基調となりました。月後半にかけても、追加的な金融緩和に伴うインフレ懸念や堅調な経済指標がマイナス材料となり、債券市場は下落基調のまま月を終えました。(2年債利回りは前月比0.12%、10年債利回りは前月比0.20%それぞれ上昇しました。)

ユーロ圏債券相場は、欧州周辺国に対する財政懸念が拡大したことや、米国で追加金融緩和策が決定されたことを受けて上昇して始まったものの、その後ドイツで好調な経済指標が発表され、堅調な景気回復が示されたことを背景に下落基調となり、月を通じてみると長期債を中心に下落しました。(2年債利回りは前月比0.13%低下した一方で、10年債利回りは前月比0.15%上昇しました。)英国債券相場は、弱めの経済指標などを材料に上昇して始まったものの、BOE(英国中央銀行)が追加的な緩和策を見送り、市場の期待するような緩和姿勢を示さなかったことから下落基調に転じ、月を通じてみると下落しました。(2年債利回りは前月比0.24%、10年債利回りは前月比0.15%それぞれ上昇しました。)

日本債券相場は、月初、米国で発表された追加的な金融緩和策を好感し主要株式市場が上昇するなか、日本債券市場は軟調に推移しました。その後も、日本の7-9月期実質GDP(国内総生産)成長率が事前予想を上回ったことや、日経平均株価が一万円台を回復したことがマイナス材料となり、下落基調のまま月末を迎えました。(2年債利回りは前月比0.06%、10年債利回りは前月比0.26%それぞれ上昇しました。)

## &lt;パフォーマンス&gt;

先月のパフォーマンスはマイナス0.04%となり、ベンチマークを0.29%上回りました。米国や欧州で金利リスクを多めとする戦略はマイナスとなったものの、ユーロに対する消極姿勢やモーゲージ債に対する積極姿勢がプラスとなりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

## 特別勘定名称

## 日本債券型(GW)

## 運用方針

国内の物価連動債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に安定した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本債券型 (GW)	▲0.23%	0.46%	2.50%	2.23%	▲2.04%

## 特別勘定資産内訳

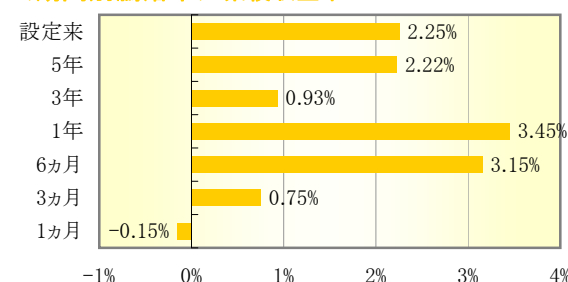
	構成比 (%)
現預金・その他	2.7%
投資信託	97.3%
合計	100.0%

【参考】 日本債券型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## MHAM物価連動国債ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社: みずほ投信投資顧問株式会社)

## &lt;期間別騰落率&gt; 累積収益率



※累積収益率は、ファンドの決算時に収益分配があった場合にその分配金(課税前)を再投資したものとして算出。

※累積収益率は実際の投資家利回りとは異なります。

## &lt;組入上位5銘柄の組入比率&gt;

	銘柄名	利率	償還日	比率
1	第16回利付国債(物価連動・10年)	1.400%	2018/06/10	32.9%
2	第12回利付国債(物価連動・10年)	1.200%	2017/06/10	29.3%
3	第4回利付国債(物価連動・10年)	0.500%	2015/06/10	13.2%
4	第2回利付国債(物価連動・10年)	1.100%	2014/06/10	10.4%
5	第1回利付国債(物価連動・10年)	1.200%	2014/03/10	7.8%

## &lt;ポートフォリオの状況&gt;

国内債現物組入銘柄数	7銘柄
公社債の平均残存期間	5.91年

※組入比率は純資産総額に対する比率を表示しています。

国内債現物	98.3%
国内債先物	0.0%
その他資産	1.7%

※その他資産は、100%から国内債現物・国内債先物の組入比率の合計を差し引いたものです。

## &lt;公社債の残存期間別組入比率&gt;

残存年数	比率
1年未満	0.0%
1年～3年未満	0.0%
3年～7年未満	65.4%
7年～10年未満	32.9%
10年以上	0.0%

※組入上位5銘柄の組入比率、公社債の残存期間別組入比率は純資産総額に対する比率を表示しています。

## &lt;運用コメント&gt;

## ■先月の投資環境

第1回物価連動国債利回りは、11月末現在で1.048%と前月末比約0.02%低下しました。

第1回物価連動国債とほぼ同じ期間の10年長期国債(第258回債)との複利利回り格差(物価連動国債が償還までにどれだけの物価上昇(年率)を織込んでいるかを示す値=ブレイクイーブンインフレ率)は、月初マイナス0.8%台後半で始まり、マイナス幅は縮小しながら推移し、中旬には0.6%台半ばとなりました。しかし、その後はマイナス幅が拡大傾向で推移し、月末にはマイナス0.7%台半ばとなりました。この結果、ブレイクイーブンインフレ率のマイナス幅は前月末比で縮小しております。

物価連動国債利回りは、残存期間が長い銘柄を中心に利回りは小幅上昇しました。

また、全国消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数。以下コアCPIという。)から算出する物価連動国債の11月末の連動係数(連動係数についての詳細は運用報告書をご参照ください。)は、10月末比横ばいとなりました。

## ■先月の運用概況

物価連動国債を高位に組入れているポートフォリオを維持しました。組入れた公社債の平均残存期間は5.91年としております。

かかる運用の結果、ブレイクイーブンインフレ率のマイナス幅が縮小したことが、プラスに寄与したものの、マザーファンドで保有している物価連動国債とほぼ同じ期間の10年長期国債利回りが上昇したことがマイナスに影響したことから、当ファンドの11月末の基準価額は10.081円と前月末比15円の低下となりました。

## ■今後の運用方針

物価連動国債を参照する物価指数であるコアCPIの足元の状況については、2010年11月下旬に発表された10月分のコアCPIの値が前年同月比マイナス0.6%と引続きマイナス水準にあります。今後につきましては、日銀の物価の見通しにもありますように、中長期的にはコアCPIがプラスに転じることが展望できるようになるものと見込みます。

なお、総務省では2011年夏に5年毎に行われるCPIの基準改定を予定しておりますが、この改定結果によってはCPIに下方圧力がかかることも想定されますので、動向には注視して参ります。物価連動国債市場を取り巻く環境につきましては、引続き財務省による買入消却等の需給面のサポートが期待されるため、需給動向を反映しながら推移すると見込みます。加えて、消費税率の引き上げが現実味を帯びてくれば、物価連動国債にプラスに寄与するため、その動向が注目されます。今後につきましては、引続きブレイクイーブンインフレ率の動向を注視すると共に、需給動向及びコアCPIの変化に備えたポートフォリオを維持していく方針です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 海外リート型(GW)

運用方針

日本を除く世界各国の上場不動産投信(REIT=Real Estate Investment Trust)を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)に連動した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
海外リート型 (GW)	0.38%	7.22%	4.58%	17.37%	▲45.19%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現金・その他	2.6%
投資信託	97.4%
合計	100.0%

【参考】 海外リート(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## ノム海外REIT インデックス・ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:野村アセットマネジメント株式会社)

### <基準価額の騰落率>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
ノム海外REITインデックス ファンドVA	0.5%	7.8%	5.2%	19.2%	▲38.6%
ベンチマーク	0.4%	7.6%	5.4%	20.3%	▲36.5%

「S&P先進国REIT指数(除く日本)」はスタンダード・プアーズ・ファイナンシャル・サービシズ・エル・エル・シーの所有する登録商標であり、野村アセットマネジメントに対して利用許諾が与えられています。スタンダード・プアーズは本商品を推奨・支持・販売・促進するものではなく、また本商品に対する投資適格性等に関しいかなる意思表示等を行なうものではありません。

※収益率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

※ベンチマークである、S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)はS&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、ドルベース)を委託会社において円換算したものです。

### <資産配分比率>

資産種別	純資産比
REIT(リート)	99.6%
その他の資産	0.4%
合計(※)	100.0%

※先物の建て玉のある場合は、合計欄を表示しておりません。  
※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

### <実質通貨別配分>

通貨	純資産比
日本・円	0.1%
外貨計	99.9%
アメリカ・ドル	61.9%
ユーロ	9.5%
イギリス・ポンド	6.6%
その他の外貨	22.0%

・実質通貨配分は為替予約等を含めた実質的な比率をいいます。

### <国・地域別配分>

国・地域	純資産比
アメリカ	61.9%
オーストラリア	13.5%
イギリス	6.5%
フランス	6.3%
シンガポール	3.4%
その他の国・地域	8.4%
合計	100.0%

### <REIT 組入上位10銘柄>

	銘柄	国・地域	純資産比
1	SIMON PROPERTY GROUP INC	アメリカ	6.1%
2	WESTFIELD GROUP	オーストラリア	5.3%
3	UNIBAIL RODAMCO SE	フランス	3.4%
4	EQUITY RESIDENTIAL	アメリカ	3.0%
5	PUBLIC STORAGE	アメリカ	2.9%
6	VORNADO REALTY TRUST	アメリカ	2.8%
7	BOSTON PROPERTIES	アメリカ	2.5%
8	HOST HOTELS & RESORTS INC	アメリカ	2.3%
9	HCP INC	アメリカ	2.1%
10	AVALONBAY COMMUNITIES INC	アメリカ	2.0%

※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

※国・地域名は発行国・地域で区分しております。

### <市場コメント>

●米商業用施設の空室率が高止まりする環境下で、アイルランドの財政危機や中国の利上げ観測などにより投資家心理が悪化したことなどを受けて、外国リート市場は下落しました。

(野村アセットマネジメント作成)

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。



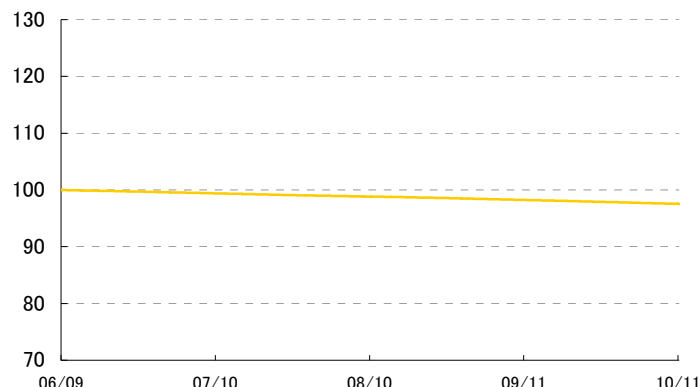
## 特別勘定名称

## マネープール型(GW)

## 運用方針

他の特別勘定で運用している資金の一時退避を目的とし、国内の公社債および短期金融商品等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、安定した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(「100」として指数化した)を指します。

## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
マネープール型 (GW)	▲0.05%	▲0.17%	▲0.35%	▲0.68%	▲2.46%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	18.0%
投資信託	82.0%
合計	100.0%

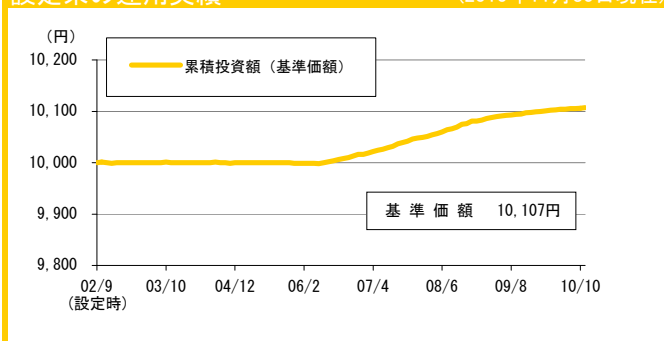
## 【参考】 マネープール型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## フィデリティ・マネー・プールVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

◆本邦通貨表示の公社債等を主要な投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行ないます。

## 設定来の運用実績 (2010年11月30日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。  
 ただし、申込手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。  
 ※当ファンドは、ベンチマークを設定していません。  
 ※基準価額は信託報酬控除後のものです。

## 商品概要 (2010年12月(月次改訂))

形態	追加型投信/国内/債券
投資対象	本邦通貨表示の公社債等
設定日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

## 累積リターン (2010年11月30日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
ファンド	0.01%	0.02%	0.04%	0.10%	1.07%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

## 過去5期分の収益分配金(税込み)

第5期(2006.11.30)	0円
第6期(2007.11.30)	0円
第7期(2008.12.01)	0円
第8期(2009.11.30)	0円
第9期(2010.11.30)	0円

純資産総額 120.1 億円 (2010年11月30日現在)

(2010年10月29日現在)

## &lt;資産別組入状況&gt;

債券	106.2%
CP	-
CD	-
現金・その他	-6.2%

## &lt;組入資産格付内訳&gt;

長期債券格付	AAA/Aaa	-
	AA/Aa	106.2%
	A	-
短期債券格付	A-1/P-1	-
	A-2/P-2	-
現金・その他		-6.2%

平均残存日数	51.54日
平均残存年数	0.14年

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。(「プラス/マイナス」の符号は省略しています。)なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

## 組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2010年10月29日現在)

	銘柄	種類	格付	比率
1	第131回 国庫短期証券 2010/11/22	債券	AA/Aa	25.3%
2	第146回 国庫短期証券 2011/01/31	債券	AA/Aa	13.9%
3	第125回 国庫短期証券 2010/11/01	債券	AA/Aa	12.6%
4	第147回 国庫短期証券 2011/02/07	債券	AA/Aa	12.6%
5	第144回 国庫短期証券 2011/01/24	債券	AA/Aa	11.4%
6	第126回 国庫短期証券 2010/11/08	債券	AA/Aa	6.3%
7	第137回 国庫短期証券 2010/12/20	債券	AA/Aa	5.7%
8	第132回 国庫短期証券 2010/11/29	債券	AA/Aa	4.4%
9	第135回 国庫短期証券 2010/12/13	債券	AA/Aa	4.4%
10	第133回 国庫短期証券 2010/12/06	債券	AA/Aa	3.2%

(組入銘柄数:12)

上位10銘柄合計 99.9%  
(対純資産総額比率)

\* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

## ご注意いただきたい事項

### ▲ 投資リスクについて

この保険の措置（運用）期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて死亡給付金額、年金額および解約払戻金額等が変動（増減）します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

### ▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢などの諸条件により、ご契約者などが受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。

保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

### ▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料(増額保険料を含む)に対して <b>5.0%</b> を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して ( <b>年率0.75%+運用実績に応じた費用(※)</b> )/365日を毎日控除します。 ※ 運用実績に応じた費用:運用実績を毎日判定し、運用実績が <b>年率1.5%を超過</b> した場合のみ、 <b>超過分1%あたり0.1%(上限1.25%)</b> を控除します。
契約管理費	基本保険金額が100万円未満のご契約に対し、 <b>毎月500円</b> を積立金から控除します。
移転費	積立金の移転が年間13回以上のとき、 <b>移転一回につき1,000円</b> を、保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の <b>1%</b> を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	日本株インデックス型(GW) <b>年率0.42%程度</b>
	日本株アクティブ型(GW) <b>年率0.924%程度</b>
	海外株式型(GW) <b>年率0.399%程度</b>
	新興成長国株式型(GW) <b>年率1.155%程度</b>
	海外債券型(GW) <b>年率0.9135%程度</b>
	日本債券型(GW) <b>年率0.252%~0.3675%程度</b>
	海外リート型(GW) <b>年率0.42%程度</b>
	マネープール型(GW) <b>年率0.008925%~0.525%程度</b>

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

## その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「ダイレクト年金 e-VA」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「ダイレクト年金 e-VA」には「特別勘定グループ(GW)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(GW)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(GW)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険(無配当)特別勘定グループ(GW)「ダイレクト年金 e-VA」は現在販売しておりません。